

私は、今年の春休みにハワイへ行きました。そこへ行ったのは四回目ですが、最後に行ったのが小学四年生だったため、今回たくさんの発見がありました。その中でも印象的だったのは携帯電話についてです。

私たちが今住んでいる日本で、学校への行き帰りや出かけるときによく見かけるのは携帯電話、およびスマートフォンを使っている人ではないでしょうか。正直私自身も、電車やバス、車などに乗るときもスマートフォンを操作してしまいます。そして、ふとまわりを見渡すと案の定、私と同じく携帯電話、およびスマートフォンを使っている人がほとんどでした。そして、操作している人を客観的に見ると、みにくくみえる人ばかりでした。背中をおもいきり曲げてまでスマートフォンを見ようとする人もいれば、スカートをはいている女性は携帯電話の画面に集中しすぎて、足がひらいていて、きたならしくみえてしまい不快な気持ちになる人もいます。しかし、その国の現地の人たちは一切と言っても良いほど携帯電話、およびスマートフォンを見ていませんでした。それなのに日本人がちょこちょこ操作しているところを見かけました。私も見かけた日本人と同じことをしていました。おかげで、人にぶつかりそうになったり、信号が赤なのに渡ろうとしたり、迷惑なことしかしていませんでした。さらに、携帯電話を操作したその瞬間、瞬間、瞬間がつもってしまい大きなタイムロスになってしまいました。写真を撮るのは、その時間限りでしか撮れない、大切なものを撮るためなら、それは良い時間を使っていると思えます。しかし、決して良い時間ではない、今しなくても良いことだって人それぞれであると思います。それらのタイムロスが、旅行が終わった今感話を書いている自分、読んでいる自分、その後の自分が後悔した時間となってしまいました。そしてそれとはまた関係あるかは分かりませんが、外国人は目が合うとほほえんでくれます。私の考えではありますが、携帯電話を見ていないからこそ、周りを見て知らない赤の他人だとしても、だれもがと言っても良いほど、明るく話してくれます。それは、日本で高齢者の方々がバスや電車で話しかけてくれるのと同じ気がします。高齢者の方々は、私たちのような多くの人々が普段から使用しているスマートフォンを持っていない人が多いと思います。ガラケーを持っていたり、簡単でわかりやすいスマートフォンを多くの人々が利用していると考えたら、連絡をとる以外使わないとなると高齢者の方々もやはり外国人と同様に、周りを見て行動しているのだとわかりました。私たちのような世代は携帯電話で自分だけの世界に入り込んでいると思います。まずは自分だけでも、勝手に一人の世界に入り込むのではなく、外国人や高齢者の方々のように周りを見て、明るく笑顔でいたいと感じました。

さき程の話に戻りますが、過去は塗り変えることはできないし、この先も後悔することには変わりはないと思います。これからの未来電子機械などがさらに身近になってしまうからこそ、一秒後、一分後、一時間後、一日後・・・をより良い時間にするために、人としっかりとコミュニケーションをとること、自分の大事な時間というものを機械にとらわれずに生きることが大切にしていこうと強く思いました。そして、それをはじめから知っていた現地の人たちからの学びを通して、これからの自分がまた昔の自分に後悔しないよう、時間という存在の素晴らしさを改めて痛感しました。